

豊山町学校施設改築・長寿命化計画（P39）				目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見 （先進事例、中学校の社会や日常生活の中での位置づけなど）										
学校施設の目指すべき姿		整備内容例		豊山中学校の現状		（先進事例、中学校の社会や日常生活の中での位置づけなど）								
				鈴木会長	鈴木副会長	武者委員	風岡委員	前田委員	池山委員	篠田委員	水野委員	小川委員		
1	教育環境の質的向上	多様な学習形態への対応	・ソフト・ハードの両面で障壁の少ない 柔軟性のある教育環境	→クラス、学年の枠を超えた交流・連携 →移動間仕切などフレキシブルな空間整備	・学年集会・生徒会活動（挨拶ボランティアなど）、部活動・委員会活動など ・移動間仕切りはない	1. 将来の普通教室の家具の形状とサイズ、および面積について検討を行う。 2. 普通教室に隣接するワークスペースの導入を検討する。 3. 特別教室の利用率の向上を図るべく、特別教室の機能について再検討する。 4. 合わせて、教科教室型、教科センター方式の導入の是非について検討する。 5. 校舎中央に、オープンメディアセンターを配置する。 6. 求められる多様な学習形態に対応したラーニングスペース（ホワイトボード、可動家具、ICT環境）を導入する。	・流行りに流されて壁なしの教室などは作るべきではない。多目的に使用できる教室を1学年分程度作り、時代やその他の要求の変化に応じて利用可能とする。 ・タブレット端末が普及したからこそ、各教室に投影装置（モニター）が必要。 ・タブレットやスマホは使えるが、いわゆる一般的なPCが使用できない若者が理系大学でも急増している。キーボードから入力する練習をする必要あり。 ・給食センターから献立情報を配信すると同時に、栄養士のコメントやワンポイントアドバイスを配信。給食時に各教室のモニターにも配信し、好き嫌いせずに残さず食べることの重要性を説明する。 ・箱モノを作った（タブレットを配ったから）からそれに満足して、改善を止めてしまっては、本末転倒。ソフト面の充実が大切。	整備内容例の「のびのび運動できる空間」に関わり、「豊山中学校の現状」について「運動場の砂埃や野球のボールについて、周辺住民から苦情を受けている。」とありますが、こうしたことは文化系クラブや音楽科（合唱・合奏など）を含めて、ほぼ全国の中学・高校で課題となっていることですし、おそらくは豊山中学校が現地にしても移転にしても今後も発生しうる課題だと思います。今回の施設設備の議論を契機に、地域の人たちと学校の部活や授業のあり方について、話し合うような場を設けてはいかがでしょうか。各地で様々な選取的な取り組みがありますが、長野県松本深高校の「鼎談深志」（NHKの高校放送に関する賞を受賞しています。同高校公認のものがYouTubeに複数あがっています）などが参考になるかと思います。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実といったキーワードが示されたが、この観点から考えたとき現在示されている整備内容例に加え、個別学習・個別指導に対するためのスペースの確保、PCやタブレットを活用した教材利用などオンライン教育に対応したAI環境の整備が必要と考える。	1 多様な学習ニーズへの対応 ①教科ごとの特別教室➡数学教室・国語教室・社会科教室等。これまででない特別教室の模索（PC室や視聴覚室は従来からある）。ただし、余裕教室があれば（生徒数と関連） ②少人数指導対応教室・調べ学習対応教室・グループディスカッション対応教室・発表対応教室等、様々な学習形態への対応➡そのために簡単に、そして自由に變化させることのできる教室。 2 豊かな人間性(心)を育む環境(教育は人づくり) ①心がほっとするHOTroom（教育相談・不登校生徒） ②交流スペース、多目的スペース（空間を広げたり、狭めたり自由度が高い設計） ③階段教室（発表会場・劇場に早変わり、住民も活用できる） ④心を育むメッセージ（地域の偉人の言葉） ➡掲示しやすさ ⑤生徒作品の発表の場として➡掲示・展示しやすさ ※学校が荒れた経験から➡廊下に花を生けた➡落ち着き始めた➡そういうことができる廊下設計 ⑥校訓「創造・責任・健康」を意識した視点での学校施設づくり ⑦校歌を意識した学校施設づくり ➡空港➡大空へはばたく中学生のイメージ	・1の1「学習の場として捉えた廊下・階段等…」とあるが、階段については記号性のあるもの、前述の生徒昇降口からずっと伸びた、しかも幅の広い大階段を1箇所。そして、そこは講演を聴きながらの学習、ちょっとした催しの観覧席や生徒への緊急連絡にも使える。 ・授業運営についての教科センター方式について、特別な教室配置（福井至民中学のように極めて特化した好事例もあるが）が必要とは思わない。ただ、教科毎に先生が集うルームは仮称教科センター（職員室）内にも設置するといい。フリースペースならば、いかようにも対応できる。	・普通教室の廊下側は、移動間仕切りにして、フレキシブルな空間の確保ができるとよいと考える。 ・各学年ともに学習室（学年室）が確保され、広い廊下等に個別指導または相談スペースが確保できるとよいと考える。 ・G I G Aスクール構想の今後の展開もあるが、コンピュータ室と図書室を近接または接続し、メディアセンター化やICT環境の整備が進められるとよいと考える。 ・ICT環境の整備として、教室の前面を黒板としてスクリーンとして活用できるような整備が必要であると考える。 ・配膳室にランチルーム、家庭科室を近接させ、地域の活用も踏まえた、食育センター化が進められるとよいと考える。 ・広大な運動場の確保と、体育館と武道場、音楽室、テニスコートの整備、文化系部活動の活動スペースの確保が進められるとよいと考える。 ・各教室にタブレット端末を保管すると考えると、施設できる環境が必要であると考える。 ・各教室につり下げ式の大型モニターがあると学習効果を高めることができると考える。 ・ICT環境の整備に伴う十分な電源の確保が必要であると考える。 ・タブレット端末を机に収納できるとよいと考える。	中学校施設基本構想・長寿命化計画であれば小中一貫校を目指すべきです。 小学校で6年間学び卒業して中学校3年間の学びになります。 先生も小学校の生徒指導をそのまま中学の担任に引き継ぎやすくなると思います。 兄弟姉妹等も同じ敷地内であれば、相談したり励まし合ったり出来ると思います。 両親が働いている場合、小学生・中学生がいる場合、半日仕事を休めば良い事もあります。 小学生の学ぶ姿や中学生の学ぶ姿をそれぞれの教員が触れ成長段階を見る事が出来ます。 いじめや不登校などへの先生の間で指導内容や指導方法、児童生徒を理するための情報交換が出来るのではないのでしょうか。 ※放課後の子どもたちの居場所モアスクールも設置して下さい。	・教室の廊下側の壁は取り除き、また廊下の幅も広めにとること、開放的な空間を確保する。 ・学年全員で共有することのできる、ラウンジを設ける。 ・充実した部活動が行えるように、グラウンド、体育館等を確保する。 ・廊下の一部を拡張するなどし、情報共有や展示物を設置できるスペースの確保。 ・現在大変教室が手狭なため、教室の拡大、または少人数クラスへの意向を検討する。
			→きめ細かな学習指導（習熟度別・少人数指導）に対応するための諸室	学年室（各学年）が必要だが1、2年しかない。										
			→情報教育に対応した空間（図書室・PC室を一体整備したメディアセンター、学習効果を高めるICT環境の整備）	・図書室とPC室は離れている。 ・校内LAN環境は整備済										
			→学習の場として捉えた廊下・階段等の共用空間の整備（グループワークスペース、作品・教材展示スペース、階段教室などの発表の場）	廊下・階段等の共用空間を活用して、生徒の作品等を展示している。ただ、共有空間は狭い。										
			→食育の場となる空間（給食の情報展示、異学年・地域交流のできるランチルームや家庭科室）	・給食の情報は、教室内や廊下などに掲示している。 ・ランチルームは多目的に活用している。										
			→のびのび運動できる空間（部活動に対応した屋内外の運動スペース・設備の充実、安全な遊び場の確保）	・現在の部活動（文化創作、吹奏楽、英語、文学、テニス、バスケ（女）、バレー（男女）、卓球（男女）、野球、サッカー、ソフトボール） ・運動場の砂埃や野球のボールについて、周辺住民から苦情を受けている。										

豊山町学校施設改築・長寿命化計画（P39）				目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見 (先進事例、中学校の社会や日常生活の中での位置づけなど)																	
学校施設の目指すべき姿		整備内容例		豊山中学校の現状																	
				鈴木会長		鈴木副会長		武者委員		風岡委員		前田委員		池山委員		篠田委員		水野委員		小川委員	
1	教育環境の質的向上	2	学校ごとに特色のある教育環境	・学校ごとの立地等を活かした 特色ある教育環境 →小学校と中学校の連携 →学校とその他公共施設の連携 →地域との連携 →ピオトープなどの屋外学習スペースの充実	・特別支援学級見学会、しいの木の福祉フェスティバルなどへの参加、町の防災訓練への生徒の参加、町体育大会への吹奏楽部の参加、町文化展への作品展示また吹奏楽部の演奏参加 ・1町1校であるため、地域に期待され生徒が町や各団体の行事に本校の生徒が参加させていただくことが多い。 ・屋外の池で鯉を飼っている。	1. 町内の公共施設（文化施設、スポーツ施設など）との機能連携分担を確認する。 2. 社会教育との連携など、まちづくりの拠点としての学習施設として位置付ける。（参照：豊田市立浄水中学校）				・今後の小中一貫教育や幼・保小中連携を見通したときに、中学校単独校舎ではなく、一体型の校舎について検討してもよいのでは。		1の2ピオトープを除いた3点の取捨選択をお願いします。 ・小学校と中学校の連携ならば、現所在地。 ・学校とその他公共施設の連携の観点では、ホール・図書館・グラウンドのあるコミュニティゾーン（豊山町第5次総合計画）へ移転 ・地域との連携は、現所在地が県道名古屋豊山稲沢線の通過側帯であり（ノンストップ）、交差点、更には上記施設のあるコミュニティゾーンへの移転が好ましい。	・1町1中学校であるため、地域に開かれた学校づくりが大切である。地域との連携を進める上で、地域の活動スペースや展示室も必要ではないかと考える。	整備内容について 小学校と中学校の連携を目指すのであれば小中一貫校を目指すべきだと思う。 又、地域との連携について具体的な内容として休日等は地域の人たちの運動の場として提供し中学生と社会人の野球試合・バレーボール等出来る様にするのはどうか？	・現在町内のイベント参加においては、一部の生徒のみとなっているので、より積極的な地域との交流への参加を求める。現在各学校との連携はあまり感じず、小学校との連携においては、全校のPTA役員会、生徒役員会を実施、防災訓練に関しても、校内の訓練の際に、地元住民や消防団にも参加していただき、生徒と連携した訓練にするといい。						
		3	生徒数に対応した空間の確保	・ 児童・生徒数に対応した適正な空間 →生徒数が多い場合：普通教室だけでなく、多様な教育を展開するための余裕スペースの確保（少人数教室、教材室等の十分な収納スペース） →生徒数が少ない場合：余裕教室の有効活用、規模適正化	令和3年度の生徒数は542人。令和5年度545人をピークとして、以降は500人前後で推移すると予測している。	1. インクルーシブ教育の具体的な取組みを明らかにする。 2. 特別支援の必要な生徒のニーズを明確にし、適切な学習環境を検討する。 3. 特別支援教室と普通教室との配置を検討する。		一町一中学校は、学校づくりとまちづくりを同時に進めていくにあたり恵まれた条件です。平成の期の町村合併と学校統廃合では、あえて小学校は従来通り存続させて、中学校は一町村一校に集約した自治体が地方を中心に少なくありません。 学校づくりの経験は、生徒にはアイデンティティを養うものとなり、保護者や住民にはコミュニティづくりに通じます。 （ここでのコメントは、特に改革・改善提案というものではありません。）			・今後生徒数は500人前後で推移すると考えられるが、40人学級から35人学級に完全に移行しても対応できる十分な広さと収納スペースを確保した普通・特別教室の環境の整備が進められるとよいと考える。 ・タブレット端末の活用をはじめ多目的な用途に対応できる机の広さを確保する必要があると考える。 ・特別支援学級は、障害の種別に柔軟に対応できる教室の確保が必要であると考ええる。 ・インクルーシブ教育のためのバリアフリーアクセスやユニバーサルデザイン化を進める必要があると考える。	少子化が進む中、豊山町の人口は増加しているが生徒数が増加するとは考えにくいので、少人数教室（最少人数）にし、教室を多目的に使える様にしたらどうか。 インクルーシブも必要であると思う。みんな同じではなく一人一人個性を持っている事を学ぶべきだと思う。「思いやりの心」を育む機会は必要です。	・教室については、生徒数に応じて対応できるように、フリー教室を設ける。								
		4	働きやすい執務環境	・教職員がより教育に専念できる働きやすい空間整備 →適正規模の執務スペース、校務センター化(職員室・印刷室などの管理諸室を集約) →事務負担軽減のための校務処理のIT化への対応 →充分な駐車場の確保	・現在の職員数：48人 ・職員室126㎡（18m×7m、2クラス分）、印刷室27㎡（4.5m×6m）、校長室63㎡（9m×7m、1クラス分） ・統合型校務支援システムを導入している。 ・現在の駐車区画40（うち障がい者用1）	1.校務全般を見直し、創造的な執務スペースとして全国のモデルを目指す。 2. 教材研究、教材作成、などのスペースの充実を目指す。 3. 教職員の休憩スペースを確保する。 4. 正規職員以外の非常勤講師、スクールカウンセラー、外部講師などの居場所を確保する。					1の4、4の2にある職員室について、職員室という言葉を使わない。職員と生徒という暗黙の壁を前提としているこの言葉がある限り、訪れやすく、相談しやすいには決してならない。教務センターとか、他に何かいいアイデアを考えて欲しい。机配置も一般的な田の字型の横断的な配置ではなく、机のないフリースペースを考えてもいい。先生がタブレットに習熟さえすれば、机がなくても、いつでもどこでも仕事ができる。GIGAスクール構想は教え方のみならず先生の執務環境でも整えるべき。ファイルは電子化。教務スペースと校務スペースを峻別など。	・教職員が50人前後で推移すると考えると、職員室は狭い。適正規模の執務スペースと様々な勤務形態の教職員に対応できるようになるとよいと考える。 ・管理諸室（印刷室や放送室、進路室等）と更衣室を集約できるとよいと考える。 ・校長室は、校長室と応接室（中会議室）に分けるとよいのではないかと考える。 ・大会議室や多目的室が必要であると考ええる。 ・来客対応や地域の活用から、現状の駐車区画の倍は必要かと考える。	・教職員の労働環境改善のため、職員室の拡張や、更衣スペースの拡充を行う。								

豊山町学校施設改築・長寿命化計画（P39）				目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見 (先進事例、中学校の社会や日常生活の中での位置づけなど)											
学校施設の目指すべき姿		整備内容例		豊山中学校の現状		鈴木会長	鈴木副会長	武者委員	風岡委員	前田委員	池山委員	篠田委員	水野委員	小川委員	
快速な学習生活空間・環境への配慮	1	・勉強に集中できる快適な学習環境	→自然採光・通風の確保 →適正な照度、温熱環境等を確保する設備	・本館の普通教室、特別教室はすべて南向きに配置されている。体育館棟にある加工室のみ東向き。 ・普通教室、特別教室にエアコンを整備している。	1. 校舎の木造化、内装の木質化を検討する。 2. 環境教育の教材としての学校建築を目指す。 3. エコスクールを目指す（参照：瑞浪北中学校）。 4. 学校設計に生徒の要望、考えを盛り込む。 5. サイン計画など、生徒のデザインを採用する。 6. 総合的な学習において学校計画に関わるテーマを取り上げ（ユニバーサルデザイン、環境学習など）その成果を活かす。	あくまで教育施設であるので、ホテルやショッピングモールのような、過度に美しくしたり自動化しすぎるのはよくない。ある程度安価な施設にしてもよい。 例：自動で蓋が開いて、用を足した後の自動洗浄機能などは考え物。	整備内容例の「健康を守る快適な生活環境」、「学校生活が楽しくなる豊かな空間」、「ユニバーサルデザインの徹底」などでトイレのことが記載されています。このことに係り、現在家庭のトイレの洋式化率は80～90%以上といわれています（内閣府調査と総務省調査）。一方で、公立小中学校のトイレの洋式化率（2021年）は愛知県の場合、55%程度となっています。 小学校への入学時に、親御さんは大きなスーパーや公共施設などのトイレで和式に慣れるための訓練をわが子にさせることも珍しくありません。それでも洋式に慣れなかった子どもには、和式は不慣れであったり、足腰が苦痛であったりで、上手く使えない子や我慢して使わない子が少なくありません。障害やケガを持つ子にとっては一層、和式の使用には苦しみます。 加えて、かつてのトイレは校舎北側の日のあまり当たらない陰になるようなところに多く配置され、いじめや暴力等の場となることも少なくありませんでした。 こうした場とイメージを一新させ、トイレを明るく清潔に交流の場にする取り組みも増えてきています。例えば、不登校の子どもたちの学び舎として発足した東京シュール葛飾小学校ではトイレを南に面した最も日当たりのよいところに配し、採光をよくし明るい壁・便器や百貨店や一流ホテルのロビーのような雰囲気のトイレを整備したところ、トイレでのいじめ等はもろろんなく、学級や学年を超えた子どもたちのちょっとした交流の場となりました。なおトイレのデザイン等は、東京理科大学の建築関係の研究室とそこの学生のボランティアが大いに貢献しました。	・特にLGBTの生徒にはトイレや更衣室の利用に配慮がいるのではと思われる。			・校舎は南向きに配置し、自然採光が十分に確保できることが望ましいと考える。 ・トイレは、十分な広さを確保し、洋式化し、シャワートイレが望ましい。また、臭気の改善が必要であると考えます。 ・トイレは、感染症対策や衛生面から、清掃・メンテナンスのしやすい仕様が必要であると考えます。 ・感染症対策や熱中症対策、シックハウス症候群対策ができるように適切な断熱や換気、調湿等が行える校舎づくりが望ましいと考えます。 ・トイレなどの壁の色などを明るく、清潔な雰囲気にするとよいと考える。 ・多目的トイレがあるとよいと考える。 ・校舎の窓の施錠の安全・簡素化をするとういと考える。	エアコンは省エネタイプですか？ 清潔感のトイレ、シャワー室を作ってください。 体に害のない素材を使って下さい。 プール・体育館は校舎と併設すべきと考えます。	・教室に関しては、現状通り南に面した配置とし、すべての教室にエアコンを設置する。 ・トイレは自動水栓、全基シャワートイレ、個室の増設を望む。 ・余裕のある空間を確保し、維持管理しやすい配置にする。		
		・健康を守る快適な生活環境	→清潔感のあるトイレ(適切な水圧の確保、臭気の改善、清掃・メンテナンスのしやすい仕様、トイレの洋式化) →適切な断熱による結露防止、木質化による調湿 →シックハウス症候群対策（低 VOC 製品※、充分な換気が行える設え） ※低VOC 製品：有害物質であるVOC(揮発性有機化合物)の含有量が低い製品のことを示す。VOC は主に塗料や接着剤、アスファルト等に含まれている。	・湿式トイレ、便所の形式は和式と洋式が混在している。シャワートイレなし。 ・内壁の木質化はなし。 ・局所的な換気設備はあるが、基本的に窓等を活用した換気を行っている。											
		・学校生活が楽しくなる豊かな空間	→季節を感じる植栽整備 →ラウンジなどの教室以外の居場所づくり →充分な屋外の遊び場 →交流空間としてのトイレ	・敷地境界に植栽あり。また、校地内に花壇あり。 ・ラウンジに該当するスペースはなし。 ・中学校なので道具はなし。 ・現在のトイレは狭小であり、臭気も強い。											
	2	・自然エネルギーの活用	→太陽光発電、太陽熱利用など →トップライト・光ダクト・バランスサッシ(換気塔)などの自然採光・通風施策	自然エネルギーを活用する設備はなし。									・照明のLED化を進めるとよいと考える。 ・潤いを与える植栽の整備が必要であると考えます。 ・排水設備の効果的な運用ができるとよいと考える。		・時代に合った、太陽光等の、自然エネルギーを活用する。 ・自然、省エネルギー等、採用している試みを、しっかりと生徒たちにアピールし、理解してもらえようようなパネルの設置をする。
		・省エネルギー対策	→外壁・屋根・開口部の断熱強化、屋上・壁面緑化、庇等による日射制御 →省エネ設備機器の採用	構造的な省エネルギー対策は行っていない。											
		・環境教育の素材となる学校施設	→ビオトープ、地域環境とつながる敷地内緑化 →環境配慮施策の学習用サインパネル※ ※環境配慮施策の学習用サインパネル：校舎の壁面などに省エネ効果のある導入設備について図解付きで示し、学習効果を担ったパネルのことを示す	・敷地境界に植栽あり。また、校地内に花壇あり。 ・省エネ導入設備は無いことから、環境配慮施策の学習用サインパネルは無い											
3	・ユニバーサルデザインの徹底	→分かりやすいサイン(見やすい文字サイズやピクトサイン※、英語併記など)、使いやすいトイレ(洋式化、手すり設置など) →インクルーシブ教育システム（障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み）の構築 ※ピクトサイン：主に教室やトイレのサインなどに使用される視覚記号（アイコン）のこと	・トイレは一部洋式化されている。また、障がい者用トイレは設置してある。 ・体育館の渡り廊下や昇降口、玄関などにスロープを設置している。	1. 当事者参加の設計ワークショップを行う。 2. ジェンダーフリーのトイレについて検討する。 3. クールダウンスペースを設ける。		・生徒の意見聴取は生徒会役員のみにはヒアリングするのではなく、マイノリティ（LGBT、不登校、障がいのある生徒など）の意見聴取もできると良い。 ・特にLGBTの生徒にはトイレや更衣室の利用に配慮がいるのではと思われる。(再掲) ・また、住民の意見聴取の際にも、マイノリティの大人に中学校時代困ったことなどを聞いても良いのでは。				・ピクトサインの活用によるユニバーサルデザインの徹底を進めるとよいと考える。 ・エレベーターや多目的トイレ、手摺、スロープ、車いす駐車場の設置を進め、バリアフリー化を進める必要があると考えます。		・各教室に、わかりやすく目立つデザインで、プレートを設置し、生徒が利用しやすい工夫をする。 ・障がい者専用駐車場をしっかりと確保し、スムーズに校内へ入ることのできるような動線を作る。 ・各階に障がい者トイレの設置。			
	・バリアフリー施設の整備	→エレベーター、手摺、多目的トイレ、車いす駐車場の整備 →屋内外の段差解消、すべりにくい床仕上げ	障がい生徒が使用できるエレベーター1基、体育館の渡り廊下や昇降口、玄関などにはスロープを設置している。障がい者用トイレはあり。障がい者用駐車場は1台あり。												

豊山町学校施設改築・長寿命化計画（P39）				目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見 （先進事例、中学校の社会や日常生活の中での位置づけなど）										
学校施設の目指すべき姿		整備内容例		豊山中学校の現状										
					鈴木会長	鈴木副会長	武者委員	風岡委員	前田委員	池山委員	篠田委員	水野委員	小川委員	
地域コミュニティの拠点形成	学校と地域の連携・協働	・地域との接点となる空間の整備	→地域の見守りを活用する空間(見通しのよい敷地境界の設え、地域が日常的に利用できる空間の整備) →郷土や学校への愛着を育む施設整備(地域の歴史を学べる室の整備、歴史的なモニュメントの保存)	学校営業時間外の学校施設開放は行っているが、地域が日常的に利用できる空間はない。	1. 町民が自由に出入りできる地域活動室を設置するなど、コミュニティスクールとしての見える化を行う。 2. セキュリティ確保に町民の目を活かす。	・校舎は可能な限りの高層階とし、動線分離とフロアごとに機能を分離。 例：1階 地域との共同利用設備（図書館やコミュニティスペースなど） 2階、教員スペース 3階 音楽室、美術室 特別教室など 4階 多目的フロア など 5、6、7階 普通教室 ・動線分離ができれば、体育館等では授業を優先するが、空いていれば、地域開放も可能となる。 ・町内の図書館をオンラインで接続し、例えば午前中にタブレット端末から貸し出し予約希望をすれば、下校時までに希望を出した学校に届いて受け取れるような仕組みを作る。無駄な蔵書を減らせる可能性が出てくるし、タブレットの有効活用にもなる。	整備内容例の「地域との接点となる空間の整備」についてですが（学校施設の目指すべき姿の「学校と地域との連携・協働」の全てに共通して言えますが）、学校側から施設設備や時間の開放に力点があるように感じました。そうだとすると、近年言われている「開かれた学校」においては、学校（公教育を実現するという一つの価値をもつコミュニティ）と地域（住民の様々な学習活動を実現する多様な価値を認めるコミュニティ）とは対等でありパートナーの関係になっていきます。パートナーといっても、これは予定調和で成立するものではないので、話し合いの場（調整の場。地域学校協働本部のようなもの）を中学校区＝豊山町区域におくか、あるいは中学校で開放できる施設設備と時間帯を明示して提供する（何かトラブルが発生した場合は調整の場・責任主体を定めておく）か、が必要のように思います。		地域住民が「 おらが学校 」と誇りに思う、 自慢の学校 ①豊山町の歴史と地域の特色を表現した施設 ・コミュニティ広場（芝生）として➡中庭にベンチ ・まちづくり（生涯学習の視点から）➡地域住民の活用（家庭科室での料理教室・図書室での読書会・音楽教室での発表・体育館でのスポーツ指導者講習としての活用など） ②学校教育と生涯学習のすみわけ ・開放日における学校施設管理の問題➡入り口を分ける、鍵 ③公共施設との複合化・共用化を図るための留意点 ・生徒等の安全（池田小学校＝セキュリティ） ・教育環境への十分な配慮➡学校教育優先利用が原則防災拠点	・地域が育む中学校として、学内に町民のためのギャラリーやミニホール整備。これはソフト面も大事であり、そこで地域住民との交流が生まれる。生徒のための施設でもある。 ・地域開放玄関と生徒昇降口を峻別したい。視察で気が付いたが、現在の中学校は正門も分かりづらく、しかも西門・北門もある。これでは防犯上もよくない。堂々とした正門をくぐり、生徒昇降口へ向かうようにしたい。正門とは別に、建物と一体化した地域開放玄関を造る（常時開放しない）。 ・15900人お互い共助の町とするためには、福祉施策と教育の縦横斜めの複合化が必要。例えばジュニアボランティアセンターやジュニア赤十字奉仕団を育成するためのボランティアルーム、そこへは、社協にある点字室コーナーを一部移設し、生徒との触れ合いの機会を高める。 ・校歌の「世界を友と」飛び立たん、とある。グローバルなイメージが校内いたるところにあるといい（モニュメントやグラント郡との交流紹介等）。 ・1年生のリトルワールド遠足での感想や旅行記が展示してあったが、非常によい。	・明確なセキュリティラインを設定し、地域の活動スペースを設けるとよいと考える。 ・歴史を刻む記念碑の設置を行う必要があると考える。	常に地域の見守りも必要であるが、学校と地域との見守り体系を明確にすることが求められる。	・地域コミュニティの利用が可能な区域を、校内に設け、積極的に利用を促す。ただし、セキュリティの観点から、校内への入り口を完全に分け、通常は生徒たちとの接触を避ける。 ・地域の方と同じ課題に対して、話し合える授業を設ける。 ・駐車場の常時解放はしない。 ・町内の航空関係、北部市場などと連携し、より地元産業について学ぶ機会をつくる。	
	地域開放、地域施設との複合	・地域特性を生かした教育	→航空宇宙産業を活かした教育	航空ミュージアムへの見学による学習やキャリア教育などに取り入れている。	1. 屋外プールを廃止する。			・考え方として、教室、職員室などの学校教育のコアとなるスペースと図書館、体育館、プール、音楽室、家庭科室など地域開放が可能なスペースは分けて考えて、複合化や多機能化による住民のための施設としての活用を前提としたプランを考えても良いのでは。 ・その際、施設の運用や誰が管理するのかを整理しながら、施設計画を考える必要がある。学校教育のスペースと地域の生涯学習スペースとでは管理のあり方についても分けて考えても良いのでは。（BOT方式など）		・中学校で取り扱う種目、部活動、社会体育で行われている種目に十分に対応できる体育館、武道場、プール、テニスコートであることが必要であると考ええる。		・部活動と、学校開放で行われているスポーツとの連携を図る。 ・図書室を、社教センター図書室とリンクさせ、より充実した書籍の陳列を行い、生徒たちに書籍への関心を持たせる。		
		・地域の生涯学習のための機能整備	→社会体育に対応できる体育館(規模・天井高さ) →クラブハウス、屋外トイレ等地域利用施設の整備 →社会教育センターの図書室と学校図書館の共同利用	【中学校で行う種目】 バスケットボール・バレーボール・マット運動・跳び箱運動・ダンス・体づくり運動（ボール・平均台・フラフープ） 【学校開放で行われている種目】 バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ソフトバレー、卓球、新体操、インディアカ、剣道、柔道、ランニングコースを使用したランニング（バレーボールの利用が多い） ・平成31年度（コロナ影響前）:学校開放登録団体76団体 ・屋外トイレはあるが、地域用のクラブハウスはない 図書室の地域開放は行っていない。										

豊山町学校施設改築・長寿命化計画（P39）				目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見 （先進事例、中学校の社会や日常生活の中での位置づけなど）									
学校施設の目指すべき姿		整備内容例		豊山中学校の現状									
				鈴木会長	鈴木副会長	武者委員	風岡委員	前田委員	池山委員	篠田委員	水野委員	小川委員	
安全・安心な施設環境の確保	災害に対応した学校	・地震などの災害に強い学校	→躯体の健全性を保つ(防水劣化、ひび割れによる漏水の防止・改善) →非構造部材、設備機器の耐震化による安全確保	耐震改修工事実施済み	1. 災害拠点としての学校施設と位置付ける。	・耐震構造を基本とし、いたずらに免震化しない。地域の地盤特性、固有周期など、きちんと対案を含めて検討して決定。施設の維持管理費用にも直結する。 ・避難所となる際は体育館、および地域との共同利用スペースに限定し、普段から動線分離の意識を持っており、発災時およびその後の学校教育活動の妨げにならないようにしておく。		・避難所として機能を果たす観点から、最低限の生活に必須の設備や備品の整備に加え、更衣室・シャワー室、トイレの設置といったプライバシーの確保といった観点を加える必要がある。		・耐震性に優れた校舎の建設を望む。 ・経年劣化による雨漏りに強い校舎の建設を望む。 ・町指定緊急避難場所としての必要な設備・備品の整備を望む。		・町の中心的避難所としての役割を強化する。（防災倉庫の充実、町民避難訓練における、学校避難訓練との連携。） ・わかりやすい災害時使用設備の設置等。	
		・町指定緊急避難場所としての万全な災害対策	→マンホールトイレ、かまどベンチ、防災備蓄倉庫、貯水槽、非常電源等の災害時に利用できる備品・設備の整備 →避難所となる体育館と校庭・駐車場との連携 →防災拠点としての機能拡充	・体育館と校庭は隣接している。駐車場と体育館の間は、建物がある。 ・マンホールトイレ1箇所あり ・町の防災倉庫を設置予定（令和3年8月）									
	日常の安全性確保	・教職員が見守りやすい環境	→校内各所の教師コーナー、訪れやすく相談しやすい職員室、相談室等	本館1階に職員室及び教育相談室がある。	1. 校内に教師コーナーを分散設置の必要性については検討必要。		整備内容例の「感染症対策」に関わって、ソーシャルディスタンスを担保するため、またICT（タブレット等の利用や調べ学習などのグループワーク）活用のため、従来よりも教室の面積を広くするとともに、机を大きくすることが、この際必要と考えます。			・職員室について、職員室という言葉を使わない。職員と生徒という暗黙の壁を前提としているこの言葉がある限り、訪れやすく、相談しやすいには決してならない。教務センターとか、他に何かいいアイデアを考えて欲しい。 ・机配置も一般的な田の字型の横断的な配置ではなく、机のないフリースペースを考えてもいい。先生がタブレットに習熟さえすれば、机がなくても、いつでもどこでも仕事ができる。GIGAスクール構想は教え方のみならず先生の執務環境でも整えるべき。ファイルは電子化。教務スペースと校務スペースを峻別など。	・職員室に近接して管理諸室を集約し、センター機能を果たすようにするとよいと考える。 ・各学年には、学習室（学年室）を配置し、各階でのセンター機能を果たせるとよいと考える。 ・広い階段・廊下の設置が必要であると考える。 ・地域の活動スペースとの明確なセキュリティラインを設定し、セキュリティ区画を確定するとよいと考える。 ・各所に防犯カメラを設置し、安全対策を講ずることができるようにするとよいと考える。 ・感染症対策として、手洗い場は、密にならず、多く設置することが望ましいと考える。 ・各教室にも必要に応じてアクリルパネルの設置が必要であると考ええる。	防犯整備の強化対策は？	・防犯カメラの増設、PTAパトロールの強化等。 ・全箇所自動水栓への切換え ・校内全体の換気システム、または風の流れを考慮した窓の設置。
		・防犯対策による安心な学校	→地域の見守り →セキュリティ区画、防犯カメラ	・不審者情報等について、保護者向けにメール配信を行っている。防犯対策として、校地出入口5箇所に管理用カメラを設置している。 ・校地外については、防災安全課所管事業として次の防犯対策を行っている。 町内17箇所（33台）に防犯カメラの設置 交通安全協会、PTA等による交通指導 防犯協会及び自主パト隊による防犯パトロール 老人クラブの通学路見守り活動									
		・日常の事故を防止	→窓・階段などからの落下防止 →ゆとりある廊下・階段	窓に落下防止柵等はない。 廊下幅：2.3m、階段幅2.25m									
	・（新）コロナ禍から将来へ	→感染症対策	・移動式サーキュレーターを用いた教室内の空気循環 ・職員室内教員用デスクへのアクリルパネル設置 ・水道蛇口のレバーハンドル交換 ・固定式机椅子の可動式への入替										

豊山町学校施設改築・長寿命化計画（P39）				豊山中学校の現状	目指すべき姿・整備内容に対する委員の意見 （先進事例、中学校の社会や日常生活の中での位置づけなど）								
学校施設の目指すべき姿		整備内容例											
					鈴木会長	鈴木副会長	武者委員	風岡委員	前田委員	池山委員	篠田委員	水野委員	小川委員
5	財政負担を軽減する効率的な施設整備・運営	計画的な整備、敷地利用の効率化	・施設、敷地の 効率化	→余裕教室の活用、一体化・複合化、プール共有化	・余裕教室はない。 ・他校と共用している施設はない。 ・プールの一般開放は行っていない。	1. 工事期間中の学校運営、安全確保の点では移転が望ましい。ただし跡地利用を同時に計画すべき。 2. 現地建て替えの場合は、一般的に計画条件が厳しくなる。仮設校舎を建てない前提の場合、さらに厳しくなる。 3. 将来のリノベーションを念頭に置かならば、木造またはS造が良い。	20～25年ごとに、ある程度の大規模改修を見越した予算立てと維持管理費を考慮して計画を策定。	政府・与党において、小学校の全学年35人学級に続いて、中学校の35人学級の導入が前向きに検討されています。将来35人学級編制になっても対応できる教室数の確保が望まれます。余裕教室は生徒の調べ学習や発表授業にも有効に使用することができます。			・生徒・教職員の安全・安心に十分に配慮した整備・運営を望む。 ・学校運営を極力支障なく継続しながらの施設整備が進むことを望む。 ・生徒の急増・急減に対応できる余裕教室の確保ができるとよいと考える。	中学校の建て替え、移転については十分な意見収集時間を。 小中一貫教育を希望するが、中学校改修、移転を最優先とするなら、小学校の統廃合を十分に検討し、豊山小学校の改修をお願いする。	・プールは、町内全校を一か所に統合し、維持管理費の削減を試みる。 ・建設、移転等の負担を、当該年度の生徒だけに負担させない。
			・学校運営を 極力支障なく継続しながら の施設整備	→仮設校舎を極力少なくする整備計画、他公用地の活用 →児童生徒の安全に配慮した工事車両動線、工事ステップの想定 →学校運営に配慮した不公平感のない整備スケジュール	→		ネーミングライツ、クラウドファンディング、PFIなどを検討。ただし、PFIの場合、丸投げはNG。役場がきちんと参画しイニシアチブをとり、部分的に任せるなどする必要あり。						
			・市街化調整区域の扱いや航空産業等民間施設動向を踏まえた人口動向に柔軟に対応する フレキシブル性 の確保	→増築余地の確保、将来の用途変更を考慮した余裕あるスパン・階高設定	2040年までの人口は現在とほぼ変わらないものと予測されている（豊山町第5次総合計画）								
	維持管理に配慮した施設計画		・ 将来にわたる 維持管理・更新に配慮した施設	→ランニングコストに配慮した設備 →メンテナンスしやすい空間、仕様 →将来的な設備増設に配慮した予備スペースの確保	→	1. 地域住民による学校サポートを組織化し、メンテナンスなどの協力を得る。 2. 計画・設計段階において関係者参画の検討体制を整え、開校後の運営に備える。		・50年後の学校教育の内容や方法が、現在のような教室型であるかどうかの先は読みにくいことがある。50年そのまま使う校舎という発想ではなく、改修・改築にフレキシブルに対応できる施設という発想も必要ではと考える。			・メンテナンスしやすい設備を兼ね備えた校舎づくりを望む。	意見聴取の実施については十分な検討を。 改修・移転については幅広く、住民アンケートを実施してください。	・基本、建物を含む設備に関しては、できるだけ維持管理の負担が少ない様式を検討する。